

「看護の視点が薬物治療を変える!!」

「免疫学の視点から 薬を考える」

— 患者さんに自信を持って助言できる看護師となるために —

開催日時

2018年 **8月18**日(土) 13:50~15:20

開催場所

熊本県立劇場 第3会場(BF 大会議室)

〒862-0971 熊本市中央区大江2丁目7番1号

講師

首藤 剛 先生

熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)
遺伝子機能応用学分野 准教授



座長

柳田 俊彦 先生

宮崎大学 医学部看護学科臨床薬理学 教授
日本薬理学会 企画教育委員会委員

お問い合わせ先

一般社団法人日本看護研究学会 第44回学術集会事務局
e-mail: jsnr44@higo.ne.jp

私たちの体は、自律神経系、内分泌系、そして免疫系のバランスにより維持されている。中でも、免疫系は、外敵である細菌やウイルスのみならず、内敵であるがん細胞などの脅威に立ち向かう重要なシステムである。したがって、免疫系の仕組みを理解することは、感染症のみならず自己免疫疾患やがんに対する治療薬を考える上で重要である。また、免疫は、臓器移植の拒絶反応にも関わることから、移植医療に関わる者にとっても重要な学問領域といえる。事実、世界の大型医薬品売上高ランキング上位50(2016年度)を見ても、この中の約60%以上の医薬品は、免疫学に関連している。このような背景からも、患者さんにとって最も身近な存在である看護師の方々が、免疫学に基づいて薬物療法を考えることができるようになれば、まさに「鬼に金棒」である。

本講演では、看護師の方々が、医薬品や医療行為に関する助言を患者さんによりわかりやすく、よりの確に実践できるように、苦手に思われがちな免疫学を俯瞰的に捉えるコツやエッセンスを提供したい。